

マーケットの動き（2022年4月11日～4月14日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。3月の米国CPI(消費者物価指数)は高水準だったものの、エネルギー・食品を除くコア指数の伸び率が市場予想を下回り「インフレピークアウト」説が急浮上したことから、金利上昇は一服しました。週末にかけては、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官の発言を受け、金融引き締めの前倒し観測が強まったことから金利は上昇に転じました。ドイツ国債市場も、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

投資環境見通し（2022年4月）

長期金利は米国、欧州（ドイツ）ともに方向感に欠ける展開

米国：長期金利は、高インフレ環境が継続することによる利上げペース加速の一方、景気の腰折れに対する警戒感と材料が交錯する中、変動幅を伴いながらもレンジ内での動きになると予想しています。

欧州：欧州（ドイツ）長期金利は米国金利動向を注視しつつ、ウクライナ情勢やECB（欧州中央銀行）による利上げ開始時期の見通し、エネルギー価格の動向と物価関連の経済指標に対して神経質な動きとなるも方向感に欠ける展開を予想しています。

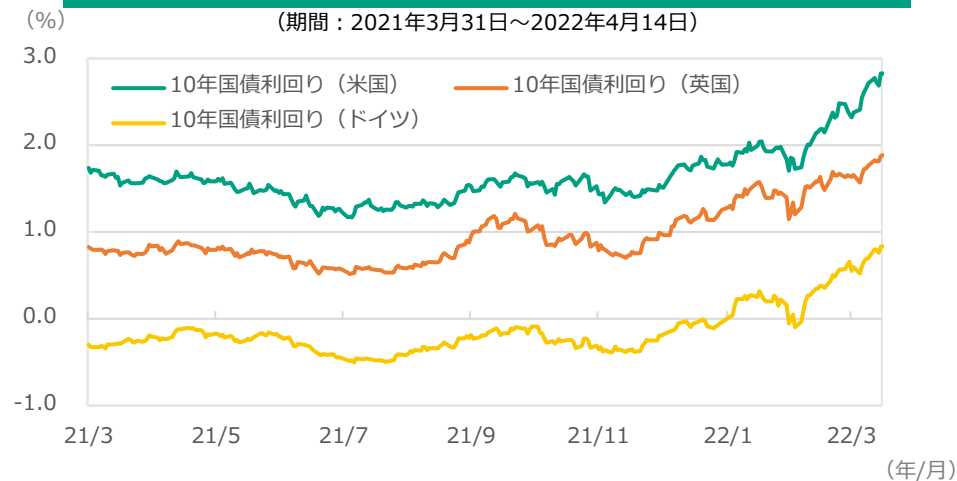
	4月14日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	2.83	0.11	0.67	1.25	1.29
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	511.51	0.17%	2.29%	▲1.45%	1.86%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202204_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2021年3月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>